

【普通解雇の記載例】

〇〇年〇〇月〇〇日

山梨県労働委員会

会長 〇〇 〇〇 様

申請者 〇〇 〇〇

※個人の場合は氏名、
法人の場合は法人の名称及び代表者の職・氏名を
記載してください（押印不要）

あ っ せ ん 申 請 書

次のとおり個別的労使紛争に係るあっせんを申請します。

労働者	住 所	〒000-0000 〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号	電話番号	000-000-0000 ※常に連絡のとれる電話番号
	氏 名	〇〇 〇〇	雇用形態	正社員（アルバイト、パート等）
使用者	事業所の所在地	〒000-0000 〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号 ※労働者が働いている(いた)事業所の所在地	事業所名	〇〇株式会社〇〇支店 (支店長〇〇 〇〇) (電話〇〇部〇〇課〇〇係 000-000-0000)
	本社等の所在地	〒000-0000 〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇号 ※本社等の所在地	本社等の名称	〇〇株式会社〇〇本社 (電話000-000-0000) ※本社等の名称
	代表者の職・氏名	代表取締役〇〇 〇〇 ※社長など代表者の職・氏名	事業の種類	製造業 ※業種
あっせん事項		これまでに受けた経済的損失と精神的苦痛に対する補償として、少なくとも1ヵ月分の賃金相当額以上の補償金の支払を求める。		
当事者の主張	労働者	私は、溶接工として20年以上の経験があり、今まで能力がないと言われたことはない。これは不当な解雇である。 復職する気はないが、急なことで生活が苦しく、精神的に苦痛を受けた。		
	使用者	他の溶接工と比べ作業が遅く、連携がうまく取れず作業に遅延が生じている。仕事の能力がないと判断せざるを得ない。 解雇日の1ヶ月前に解雇を通告しているので、経済的補償をするつもりはない。		
申請に至るまでの経過		〇年〇月〇日 入社、工場で溶接工として勤務していた。 〇年〇月〇日 社長から「仕事の能力がないから辞めてくれ」と解雇通告された。 同年〇月〇日 解雇となった。 同年〇月〇日 社長に解雇を撤回するようお願いしたが拒否された。 同年〇月〇日 社長に解雇による経済的補償を申し入れたが、拒否された。		
参考事項		同年〇月〇日 山梨県中小企業労働相談所の相談を受けた。 労働契約書（有・無） 就業規則（有・無） 労働組合（有・無） 就業開始日 〇〇年〇〇月〇〇日（勤続年数〇年） 対応者 社長 〇〇 〇〇		